



令和7年度 学力向上グランドデザイン

いわき市立勿来第二小学校

<学校スローガン>
あいさついっぱい、夢いっぱい、笑顔あふれるニコニコナコニ

<児童の実態>

- 学力面では、国語、算数とも全国平均をやや上回っている。
(R6年度のNRT結果：偏差値平均(M) 国語 51.7 算数 51.7)
- 授業にまじめに取り組むが、主体的に学ぶ態度、自己調整力を一層身に付ける必要がある。
- 体格・体力ともにほぼ全国平均であるが、長座体前屈等、柔軟性に課題がある。
- 男女の仲がよく、素直な子どもが多く下級生の面倒をよく見る伝統があるが学級内では友だちが固定化する傾向がある。

<教育目標>

主体的・協働的に学び、心豊かな「かしこく、強く、明るい子」の育成

- ◎ 自ら学び、考え、行動する子ども
知【質の高い学び】
- ◎ 健康でねばり強い子ども
体【挑戦による汗】
- ◎ 明るく、思いやりのある子ども
徳【心を紡ぐ笑顔】

<めざす学校像>

児童も、教師も目標をもって取り組み、その成果を実感できる学校づくり

<学校経営の基本>

- 一人一人の児童の成長に視点をおいた学校
- 共に考え、行動する学校
- 保護者や地域の方々の期待に応える学校

- 国語科・算数科学力テスト前年度値1ポイントアップをめざす。
- アンダーアチーバー0（ゼロ）をめざす。

<努力目標>

- ◎ めあてをもち、自主的に学ぼうとする子どもの育成

- 夢や目標をもち、共に励まし合える人間関係の育成
- 児童間の心を繋ぐコミュニケーション力の育成

基礎・基本の定着を図る教育課程の工夫

- ① 一人一人がわかる授業を展開する。
 - 授業スタンダード、活用力育成シートの活用
 - 基礎的・基本的内容の明確化
 - 教科等横断的な指導計画の工夫
 - 知的好奇心を持ち、活用力や思考力を育てる場の設定
- ② 地域に根差した課題をもとにした、問題解決的な学習を推進する。
- ③ 読書活動を推進する。
 - 朝読書、すきま時間読書、持ち帰り読書等の推進
 - 学校司書の積極的な活用
 - 図書館活用の日常化(授業との連動)
- ④ 基礎基本の定着の日常化を図る。
 - 朝のPタイム活動、タブレットドリルの継続的な取組
- ⑤ 授業外の学習活動を充実させる。
 - 家庭学習の取組への指導 ○ 朝の時間の活用

学級の特徴を生かした授業の展開

- ① 課題提示の工夫をする。
 - 本時の学びがわかる学習課題の明確化とまとめの整合
 - 既習事項を生かした、解決の見通しの場の設定
- ② 個を生かす学習過程の工夫をする。
 - 場に応じた学習形態の工夫
 - 学び方の習得（ICT活用・自己調整力の涵養）
 - 一人一人に応じたきめ細かな指導の工夫（個別最適な学び）
 - 互いに高め合うための工夫（協働的な学び）
 - 「伸び」が実感できる振り返りと確かめ
- ③ 評価の工夫をする。
 - 自己評価や他己評価など、場に応じた選択
 - 学年の発達段階に応じた効果的なまとめ
- ④ ユニバーサルデザインの視点を生かして授業を改善する。
 - 児童の認知傾向への着目

人間関係を深める学級づくり

- ① 一人一人のよさを認め合う集団づくりをする。
 - 個々のよさに気づき、ちがいを大切にする場の設定
 - 異学年交流活動、縦割り班活動の推進
 - 児童・保護者へ「合理的配慮」の共通理解
 - SSTによるコミュニケーション力の育成（月1回）
- ② 児童の自主的な態度と自己肯定感を育てる。
 - 体験的な活動を通して、自分を活かす場の設定
 - 授業や行事における自主的な「めあて」「反省」の設定
- ③ 学習・生活習慣の確立を図る。
 - 基礎的基本的学習・生活習慣の育成
 - きちんと話を聞き、自分の考えをはっきり話す力の育成
 - 学習動機の醸成、学び合う集団づくり
 - 学年や教科の特性に応じた学習方法の習慣化
 - 小中連携を生かした学び方の指導、生徒指導の充実

教師の授業力の向上

- ◎ 現職教育等での校内研究や互見授業を通して、切磋琢磨しながら授業改善を図る。
- ◎ 複数の視点から、子どもが「わかる」を実感する授業の一層の充実を図る。
- ◎ 教職員人事評価制度を活用し、教師も自ら目標をもって授業力を高める努力を続ける。
- ◎ ブロック学年や職員全体など、教師同士による学び合いやOJTの活性化を図る。

